2022年度秋学期 応用数学(解析) 第11回

第3部・微分方程式に関する話題 振動と微分方程式

浅野 晃 関西大学総合情報学部



今日は、「振動」を扱う微分方程式♀

振動とは

ある方向に進めば進むほど, 逆向きに進もうとする力が働く

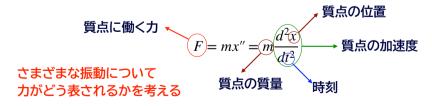
ときにおきる運動

釣り合い位置から両方に往復を繰り返す

質点の運動方程式

質点=質量はあるが大きさはない点 大きさがないので、物体自身の回転などは考えなくてよい

ニュートンの運動方程式



2022年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 3 22

2022年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃

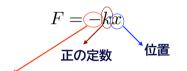
単振動瓜

単振動

もっとも単純な振動、復元力(下記)のみが働く

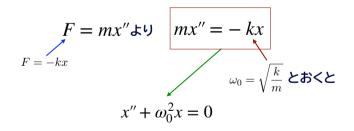
釣り合い位置にもどろうとする力[復元力]

原点を釣り合い位置とし、そこからの距離に比例する復元力が働くとすると



釣り合い位置からの方向の逆向きの力なのでマイナス

単振動の運動方程式



斉次形の2階線形微分方程式

特性方程式は $\lambda^2 + \omega_0^2 = 0$ 虚数解 $\lambda = \pm i\omega_0$

一般解は
$$x = C_1 \cos(\omega_0 t) + C_2 \sin(\omega_0 t)$$

単振動の運動方程式

$$x'' + \omega_0^2 x = 0$$
 &9 $x = C_1 \cos(\omega_0 t) + C_2 \sin(\omega_0 t)$

位置 x は実数だから、C1. C2 とも実数でなければならない

三角関数を合成すると

$$x = A\cos(\omega_0 t + \phi)$$

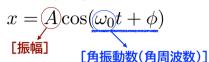
$$\uparrow_{A = \sqrt{C_1^2 + C_2^2}, \quad \phi = -\tan^{-1}(C_2/C_1)}$$

x 軸上で [-A, A] の範囲を往復する振動 単振動の式

2022年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃

単振動の式

x 軸上で [-A, A] の範囲を往復する振動



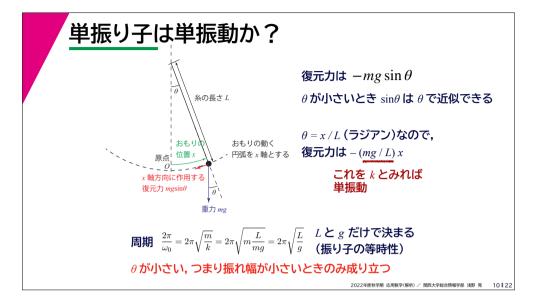
時間が1秒進むと、 $(\omega_0 t + \phi)$ が何ラジアン進むか

1往復とは、 2π ラジアン進むこと それに必要な時間は $2\pi/\omega_0$ [周期]

1秒間に何往復するか? その回数は、周期の逆数 $\omega_0/2\pi$

[振動数(周波数)]

)22年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃

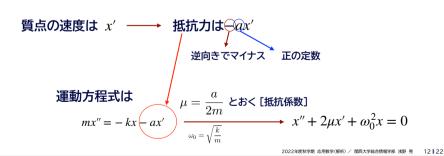




減衰振動

復元力以外に, [抵抗力]がはたらく場合

運動が速いほど、それを妨げる力が働く 空気抵抗など



減衰振動の運動方程式

$$x'' + 2\mu x' + \omega_0^2 x = 0$$
 これも斉次形の2階線形微分方程式

特性方程式は
$$\lambda^2 + 2\mu\lambda + \omega_0^2 = 0$$
 解 $\lambda = -\mu \pm \sqrt{\mu^2 - \omega_0^2}$

 $\mu^2 < \omega_0^2$ の場合を考える 抵抗力が比較的小さい場合

$$\lambda = -\mu \pm \sqrt{\mu^2 - \omega_0^2}$$
 は虚数解

微分方程式の解
$$x=e^{-\mu t}(C_1\cos(\sqrt{\omega_0^2-\mu^2}\ t)+C_2\sin(\sqrt{\omega_0^2-\mu^2}\ t))$$

三角関数を合成
$$x = Ae^{-\mu t}\cos(\sqrt{\omega_0^2 - \mu^2} \ t + \phi)$$

振幅が時間とともに小さくなる [減衰振動]

強制振動と共鳴

強制振動

復元力に加えて、外部から[強制力]がはたらく場合

質点を,角振動数 ω で強制的に振動させる

運動方程式は

$$mx'' = -kx + F\cos\omega t$$

$$f = \frac{F}{m}$$

$$\omega_0 = \sqrt{\frac{k}{m}}$$

$$x'' + \omega_0^2 x = f \cos \omega t$$

 $x'' + \omega_0^2 x = f \cos \omega t$ これは非斉次形の2階線形微分方程式

強制振動の運動方程式

$$x'' + \omega_0^2 x = f \cos \omega t$$

対応する斉次形の微分方程式は
$$x'' + \omega_0^2 x = 0$$
 単振動の式と同じ

一般解は
$$x = A\cos(\omega_0 t + \phi)$$

特殊解をひとつ見つける

$$x = C\cos\omega t$$
 を入れてみると $C(\omega_0^2 - \omega^2)\cos\omega t = f\cos\omega t$

よって、
$$\omega
eq \omega_0$$
 のとき $C = rac{f}{\omega_0^2 - \omega^2}$

非斉次形の一般解は
$$x = A\cos(\omega_0 t + \phi) + \frac{f}{\omega_0^2 - \omega^2}\cos\omega t$$

強制振動

[強制振動]の式
$$x = A\cos(\omega_0 t + \phi) + \frac{f}{\omega_0^2 - \omega^2}\cos\omega t$$
 強制力のないときの振動

強利力のないとさの振動 「固有振動」

 ω_0 [固有角振動数] $\omega_0/2\pi$ [固有振動数]

強制振動の角振動数 ω が固有角振動数 ω_0 に近づくと 強制振動の項が大きくなる

 $\omega = \omega_0$ のときは発散する 💥

2022年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 1

共鳴

 $\omega = \omega_0$ のときは強制振動の項が発散する

もう一度もとの方程式に戻る $x'' + \omega_0^2 x = f \cos \omega t$

 $x = t(C_1 \cos \omega_0 t + C_2 \sin \omega_0 t)$ と見当をつけて,

また右辺も $\omega = \omega_0$ としてそれぞれ代入すると

 $-2C_1\omega_0\sin\omega_0t + 2C_2\omega_0\cos\omega_0t = f\cos\omega_0t$

よって
$$C_1 = 0, C_2 = \frac{f}{2\omega_0}$$

解は $x = A\cos(\omega_0 t + \phi) + \frac{ft}{2\omega_0}\sin\omega_0 t$

時間がたつと振動しながら発散する[共鳴]

2022年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃

問題⑥

問題

単振動において.

t=0 のとき $x=0, x'=\nu$ となるとき, 運動方程式の特殊解を求めよ。

単振動の運動方程式の一般解は $x = A\cos(\omega_0 t + \phi)$

両辺を t で微分すると $x' = -A\omega_0 \sin(\omega_0 t + \phi)$

$$t=0$$
 のとき $x=0$ $x=v$ となるので

$$x(0) = A\cos\phi = 0$$
 $\longrightarrow A = 0$ $t \ge x \equiv 0$

$$x'(0) = -A\omega_0 \sin \phi = v$$
 振動にならない よって $\cos \phi = 0$

·022年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 20 ▮ 22

問題

一般解
$$x = A\cos(\omega_0 t + \phi)$$
 $x' = -A\omega_0\sin(\omega_0 t + \phi)$

問題に示された初期値によると

$$x(0) = A\cos\phi = 0 \quad x'(0) = -A\omega_0\sin\phi = v$$

$$\cos\phi = 0 \text{ は } \phi = \frac{\pi}{2} \text{ にできる このとき } \sin\phi = 1$$

$$D \equiv 0 \quad -A\omega_0 = v \quad A = -\frac{v}{\omega_0}$$

以上から,求める特殊解は

$$x = -\frac{v}{\omega_0}\cos(\omega_0 t + \frac{\pi}{2})$$
 すなわち $x = \frac{v}{\omega_0}\sin\omega_0 t$

2022年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 21 22

今日のまとめ

振動を表す微分方程式

単振動

減衰振動

強制振動

2階線形微分方程式で表され, それを解くと振動を表す式が得られる

022年度秋学期 応用数学(解析) / 関西大学総合情報学部 浅野 晃 22 2